

アンケート結果

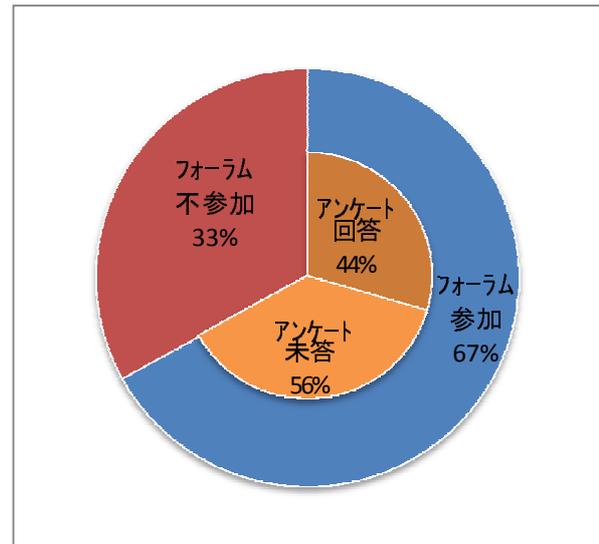
2010アジア政策フォーラム

2010年4月30日(金) @ 如水会館スターホール

申込者数(当日分含む) 115 名

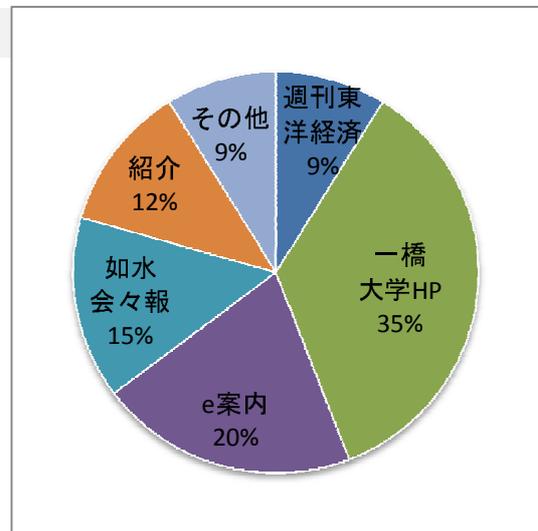
フォーラム参加者数 77 名

アンケート回答数	34 件
----------	------



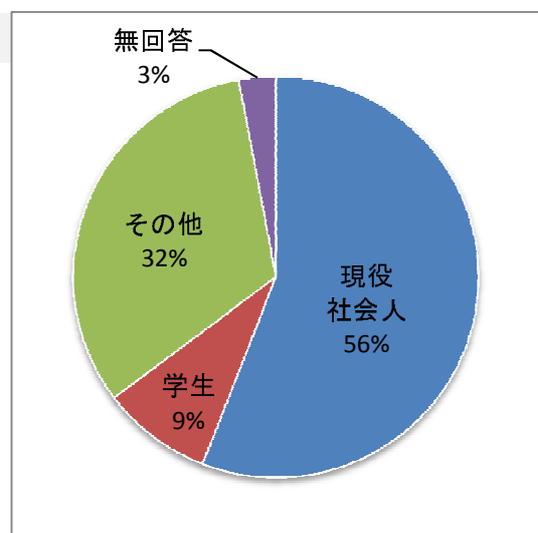
(質問1) 本フォーラムの開催を知ったきっかけは何ですか？

■ 週刊東洋経済	3名
□ ポスター/チラシ	0名
■ 一橋大学HP	12名
■ e案内状/eMail	7名
■ 如水会々報	5名
■ 友人/知人からの紹介	4名
■ その他	3名
□ 無回答	0名



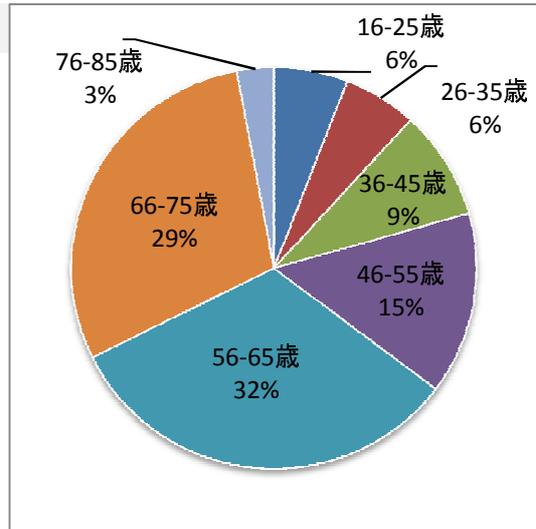
(質問2) ご職業を教えてください。

■ 現役社会人	19名
■ 学生	3名
■ その他	11名
■ 無回答	1名



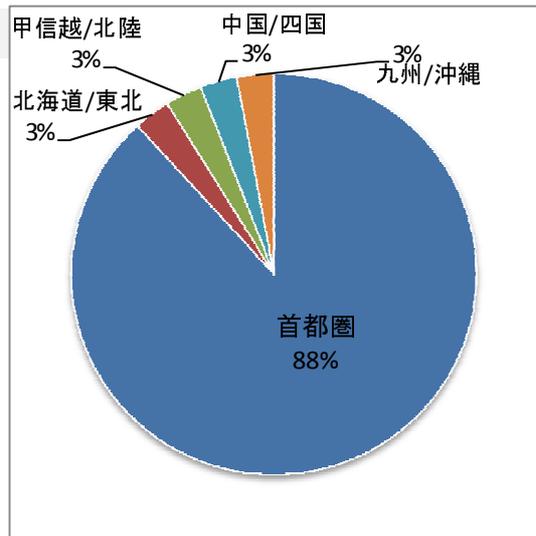
(質問3) 年齢を教えてください。

■ 16～25歳	2名
■ 26～35歳	2名
■ 36～45歳	3名
■ 46～55歳	5名
■ 56～65歳	11名
■ 66～75歳	10名
■ 76～85歳	1名
□ 86歳以上	0名



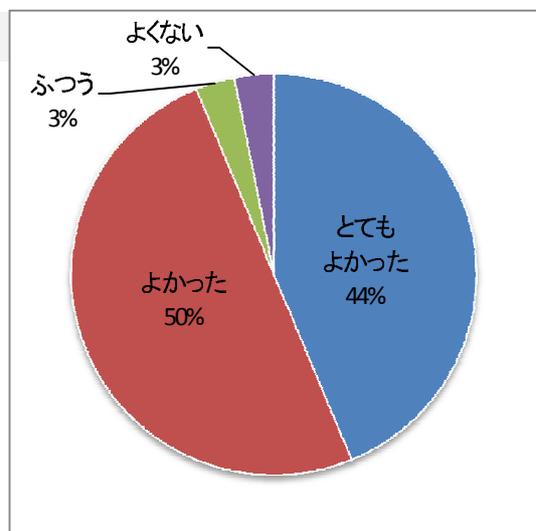
(質問4) お住まいの地域はどちらですか？

■ 首都圏	30名
■ 北海道/東北	1名
■ 甲信越/北陸	1名
□ 東海/近畿	0名
■ 中国/四国	1名
■ 九州/沖縄	1名
□ 海外	0名



(質問5) 本日のフォーラムはいかがでしたか？

■ とてもよかった	14名
■ よかった	16名
■ ふつう	1名
■ よくない	1名



【企画・内容について】

- ◆ 時宜にあったテーマで大変良かった。住宅市場については、経済学からのアプローチのみならず文化人類学もしくは行動経済学からのアプローチも必要だと思った。
- ◆ アジア諸国の学者が集い、彼らから基礎的な話を“直接”聞けるというのが非常に良かった。鳩山首相の「東アジア経済共同体」構想に関する議論ができたらもっと面白く有益だったであろう。
- ◆ FDI前後の台湾と中国との経済関係が良くわかりよかった。
- ◆ 不動産税導入がよくない理由と、難点を知りたい。
- ◆ 全く知らなかった中国政府の財政問題について、鄭先生の講演はいくつもの具体例をあげており、とてもわかり易かった。中国躍進の一端を垣間みる思いだった。
- ◆ 4ヶ国地域の学者が対等に議論できるフォーラムは初めて見た。
- ◆ 日中韓台の共同討議は非常に良かった。日本の学者だけでは明確でない事がよくわかった。
- ◆ 中国・台湾の研究者からの発表は大変興味深かった。
- ◆ 林祖嘉先生の話はたいへん参考になった。
- ◆ 金仁哲先生、林祖嘉先生の話は明快でよかった。
- ◆ 午前のセッションでは、中国を中心として日本・韓国・台湾との各関係が明確になり、理解しやすかった。今後のハンドルは難しいようだと感じた。欧米の勢力が入ってくると、益々やっかいになることだろう。
- ◆ テクニカルな説明になると理解出来ない場面もあったが、概要は把握できた。時々はこの様な頭の刺激になる会に出席するのも良い事だと思った。

【構成について】

- ◆ 方向としては大変意義深い企画と考える。ただ、本フォーラムの主題と其々のセッションが密接に結びついているのか分かりにくく、バラバラの感もあった。もっとフォーカスした方が良い。又、これらのどちらかといえば学究的作業が提言やまとめとしてどのように統括されていくのかも分かりにくい嫌いがあるのではないか。
- ◆ 午前中のセッションがまとめも含めきっちりした構成で特に良かったと思う。
- ◆ 最新の研究内容も披露され、活発な議論もあり良かった。
- ◆ 少しアカデミックになり過ぎたように思える。
- ◆ 午前のセッションは質疑応答にもっと時間を費やしてもよかったのではないか。全体としては非常に良く構成されていた。
- ◆ スピーカーの人数を少なくして、じっくり話してもらいたい。

【その他】

- ◆ 日本語訳の資料を添付してもらいたい。
- ◆ 論拠の元となるデータの資料も配布して欲しい。
- ◆ とても役立った。
- ◆ 大変勉強になった。“共存に向けての明るい道が、こういう対話を重ねることによって拓かれるのだろう”と思った。
- ◆ 講演の英語に不必要な“音”(アー、ウー、アンドアー、等)が多く含まれていて聞き苦しい。
- ◆ 大学院生など学生の姿がみられないのは不思議だった。
- ◆ 会場へのアクセスも会場の落ち着いた雰囲気もよい。

--